

シリーズ

ひらつかの年中行事 ⑥

お月見

秋、夜空に月が冴えわたる季節になりました。電灯のなかった時代、月の明かりは今よりもいっそうの存在感を放ち、夜の活動領域を広げてくれたことでしょう。満月の晩は行事も多く、1月15日の小正月の火祭り(神奈川県では14日)、8月15日の盆踊りなど全国的に主要な年中行事がおこなわれます。現在は月の満ち欠けとは無関係におこなわれますが、明治6年に太陽暦が施行される以前の太陰太陽暦では15日が満月にあたりました。

現在も月の満ち欠けにあわせて旧暦でおこなっているのが十五夜、十三夜のお月見です。十五夜は旧暦8月15日の行事で、今年は9月

22日にあたります。十五夜では、縁側にちゃぶ台を出し、ススキや桔梗(ききょう)、女郎花(おみなえし)、菊などの草花を瓶(びん)や徳利(とっくり)に挿し、お盆に団子十五個、豆腐、里芋、サツマイモ、梨、栗、柿などを盛り、御飯と味噌汁をのせ、月に向けて供えます。里芋がつきものなので芋名月とも呼ばれ、畑作物の収穫祝いの意味合いがあります。

かつてはこれらの供物を子どもたちが盗みに歩くならわしがありました。男子は夕飯後に連れだって家々を歩き、縁側の下からこっそりと手を伸ばして盗みました。竹竿の先に釘を付け、供物を突き刺



して盗む所もありました。家々では子どもたちの盗みを見て見ぬふりをするのですが、たくさん盗まれるほど幸せが

入ってくるという歓迎していました。むかしの方は、子どもたちによってお月様のもとへ供物が届けられると考えたのかもしれない。残念ながら、この風習は終戦後に学校の指導で禁じられ絶えてしまいました。

旧暦9月13日の十三夜は、今年は10月20日にあたります。行事内容は供物の団子を十三個に減らす以外は十五夜とだいたい同じです。ただ、十五夜だけ見て十三夜を祝わないと片月見になるという忌まれ、十五夜と同じ場所で十三夜も祝う習慣があります。さて、今年の仲秋の名月、そして後の名月、どこでどなたとご覧になりますか。

写真1&2:十五夜の供物(平塚市山下)



吉田正 記念オーケストラ 元気が出るコンサート

日時:平成22年**9月12日(日)**
開演:午後2時30分(午後2時00分開場)



会場:平塚市民センターホール
入場料:全席指定
S席 3,000円
A席 2,000円
※A席は2階席と最後尾2列
曲目:東京ナイト・クラブ、
異国の丘 ほか

星まつり湘南音楽祭 フォレストコンサート

日時:平成22年**9月23日(木・祝)**
開演:午後4時00分(午後3時30分開場)
会場:平塚市民センターホール

出演者:フォレスト
ゲスト:堀尾和孝(ギター)
入場料:全席指定 3,500円
*未就学児の入場はご遠慮ください。
*出演者、内容について変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。
プログラム:第一部 日本のこころ・叙情歌特集
第二部 想いで歌集(空と海の讃歌)

中村雅俊 コンサートツアー 2010~11MJ

日時:平成22年**10月24日(日)**
開演:午後5時00分(午後4時30分開場)

会場:平塚市民センターホール
出演者:中村雅俊
入場料:全席指定
S席 5,500円
A席 4,500円
*未就学児の入場はご遠慮ください。

チケットのお問い合わせ (財)平塚市文化スポーツまちづくり振興財団文化事業課 電話 0463-32-2237